



令和 6 年 12 月 26 日

## 頭頸部がん治療と、口腔機能の低下、QoL との関係を明らかに ～歯科受診はがんサバイバーの未来を明るくする！～

### ◆発表のポイント

- ・頭頸部がん<sup>1)</sup>治療が、口腔機能の低下を介して、治療後の QoL（生活の質）を低下させることを証明しました。
- ・頭頸部がん治療後に、歯科医院などで口腔機能を改善させるリハビリを受けると、治療後の QoL が改善できる可能性が示されました。

岡山大学学術研究院医歯薬学域（歯）予防歯科学の横井彩助教・江國大輔教授らの研究グループと、宝塚医療大学の森田学教授は、頭頸部がん治療が、口腔機能の低下を介して、がん治療後の QoL を低下させることを証明しました。

これらの研究成果は 11 月 20 日、欧州の科学雑誌「*Supportive Care in Cancer*」の Research Article として掲載されました。

医療技術の進歩にともない、がん治療を受けた後も、仕事をしたり、趣味を楽しんだり、自分らしく生活をおくる「がんサバイバー<sup>2)</sup>」の方が増えています。これまでも頭頸部がん治療が、がんサバイバーの QoL に影響を与えることが知られていました。今回の研究では、頭頸部がん治療が、がんサバイバーの QoL に直接影響を与えるのではなく、口腔機能の低下（口が開きにくい、しゃべりにくい）を介して、QoL を低下させることが明らかになりました。つまり、頭頸部がん治療後の、口腔機能を改善させるリハビリは、治療後の QoL を改善できる可能性が示されました。

現在歯科では、口腔機能を改善する取り組み（オーラルフレイル対策）が注目されています。本研究結果は、頭頸部がんサバイバーの方に、定期的な歯科受診を勧めるきっかけになることが期待されます。

### ◆研究者からのひとこと

明日手術をうける入院患者さんに、「がんを治療しに来たのに、なんで歯医者に行かんといけんの？」とよく言われます。いざ歯科受診が終わると、「口の中がさっぱりした。これまたしてもらえる？」と喜んでもらえるのが嬉しいです。がん患者さんはもちろん、すべての人の生活を守る歯科医療を実践していきたいです。



横井 助教



## PRESS RELEASE

### ■発表内容

#### <現状>

頭頸部がん治療と、口腔機能の低下、QoL についてはそれぞれ別々な研究がなされていました。

#### <研究成果の内容>

今回の研究では、SEM<sup>3)</sup>という統計分析の手法を用い、頭頸部がんサバイバーにおける、がん治療と口腔機能低下、QoL との関係について包括的に検討しました。この分析によって、頭頸部がん治療は、QoL に直接影響を与えるのではなく、口腔機能の低下（口が開きにくい、しゃべりにくい）を介して、QoL を低下させることが明らかになりました（図）。つまり、頭頸部がん治療後に、歯科医院で口腔機能を改善させるリハビリを受けると、頭頸部がんサバイバーの QoL を改善できる可能性が示されました。

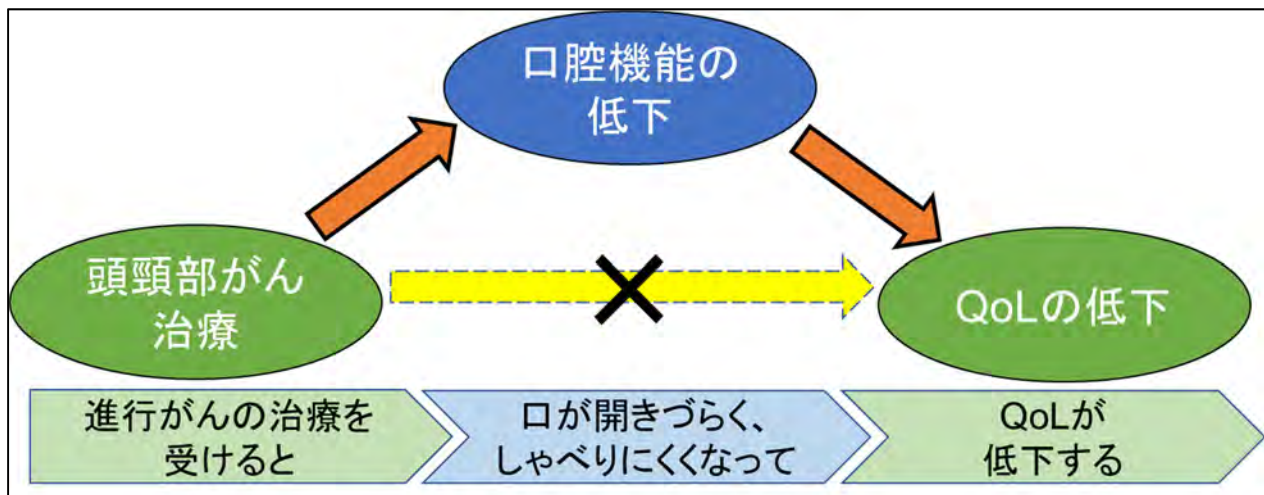


図. SEM によって導きだされたメカニズムとその意味

#### <社会的な意義>

現在歯科では、口腔機能を改善する取り組み（オーラルフレイル対策）が注目されています。本研究結果は、頭頸部がんサバイバーの方に、定期的な歯科受診を勧めるきっかけになることが期待されます。

### ■論文情報

論文名：Relationship among cancer treatment, quality of life, and oral function in head and neck cancer survivors: A cross-sectional study

掲載紙：Supportive Care in Cancer

著者：Aya Yokoi, Takayuki Maruyama, Reiko Yamanaka, Noriko Takeuchi, Daisuke Ekuni

DOI：https://doi.org/10.1007/s00520-024-09015-y

URL：https://link.springer.com/article/10.1007/s00520-024-09015-y



## PRESS RELEASE

### ■研究資金

本研究は、独立行政法人日本学術振興会（JSPS）「科学研究費助成事業」（基盤 C・21K10209・18K09909、研究代表：横井彩）の支援を受けて実施しました。また、本論文のオープンアクセス化は、文部科学省「オープンアクセス加速化事業」の取り組みの一環で実施している「インパクトの高い国際的な学術誌への APC 支援」による支援を受けています。

### ■補足・用語説明

- 1) 頭頸部がん：頭から首にかけての領域にできるがんのことです。
- 2) がんサバイバー：がんの診断を受けた人、治療する人、治療が終了した人、あるいはその家族や友人、周りの人のことです。本研究ではがん治療後6カ月経過した方を対象としました。
- 3) SEM（Structural Equation Modeling）：複数の要因からなる事象の関係をまとめたり、メカニズムを考えたりするために使われる分析方法です。

#### <お問い合わせ>

岡山大学学術研究院医歯薬学域（歯）予防歯科学分野  
助教 横井 彩  
（電話番号）086-235-6712  
（FAX）086-235-6714



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。